

宇部港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども宇部港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、山口県内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



豊かな干潟・藻場再生への取組

徳山下松港の航路泊地整備により発生した浚渫土砂を有効活用し、瀬戸内海で喪失した浅場の再生に資すること等を目的に、周南市大島地区において約29haの人工干潟を造成しています。この干潟は、周南市、地域住民、漁協にて管理・保全されており、近年、アマモ場・コアマモ場といったブルーカーボン生態系が拡大していることから、脱炭素社会への貢献に期待されています。また、当事務所と関係者との連携により、地元の小学生を対象とした干潟を活用した環境学習「海辺の自然学校」を実施しており、豊かな海を次世代へ繋ぐ取り組みを行っています。



造成した人工干潟(大島干潟)全景



海辺の自然学校の様子



干潟の環境保全活動の様子

【目標】海辺の自然学校に参加する小学生 2021年度まで延べ812人 → 2030年度まで延べ1,200人



総合学習・出前講座・見学会の実施

宇部港湾・空港整備事務所では、港湾分野の担い手を育成するために、山口県内の大学生・高専生を対象として、「港湾工学」の授業を行っています。また、港湾工事や港の役割を学ぶための「出前講座」や、工事現場の「現場見学会」も随時開催しています。費用は無料ですので、気兼ねなくお問い合わせ下さい。連絡先: TEL 0834-31-0409(企画調整課)



学生向け現場見学会の様子



小学生向け出前講座(社会見学)の様子

【目標】大学・高専の講座数 2021年度 3講座 → 2025年度 6講座



徳山下松港カーボンニュートラルポート形成への取り組み

西日本エリアへのエネルギー供給拠点としての役割を担う徳山下松港において、カーボンニュートラルポート(CNP)を形成するため、2021年2月に徳山下松港CNP検討会を立ち上げ、将来的に需要の拡大が予想される水素、アンモニア等の新たなエネルギー資源の活用に向けた検討を官民一体となって進めています。



検討会の様子



カーボンニュートラルポートのイメージ

【目標】西日本エリアのエネルギー供給拠点港としての進化(2050年)